

経営比較分析表（令和3年度決算）

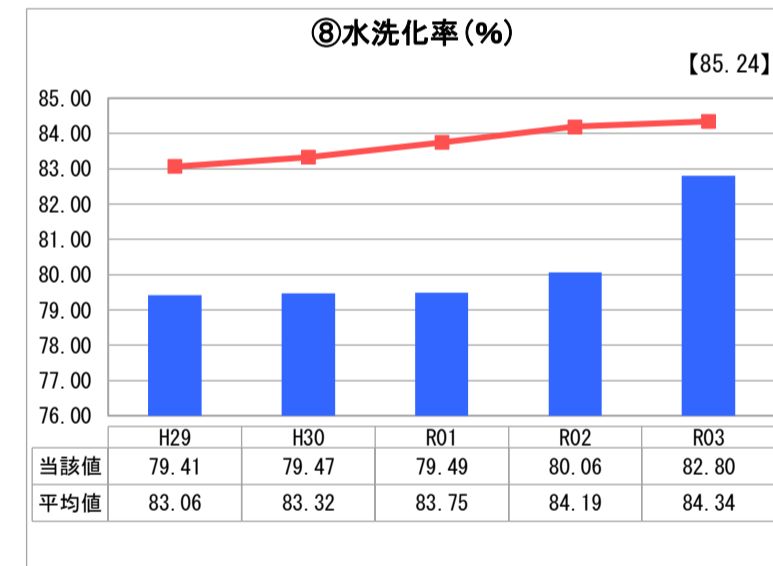
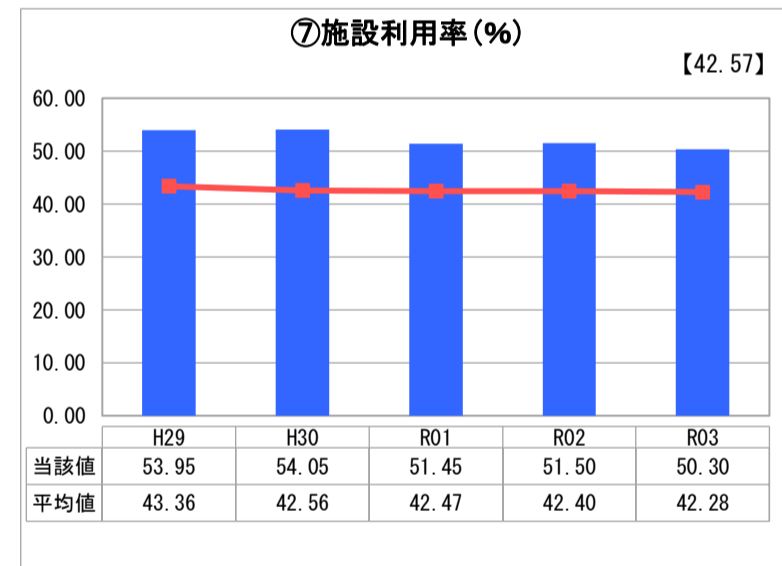
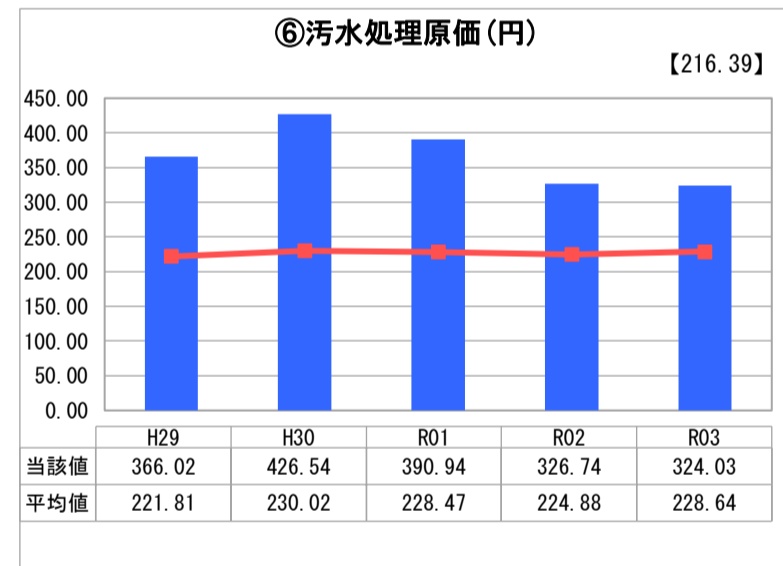
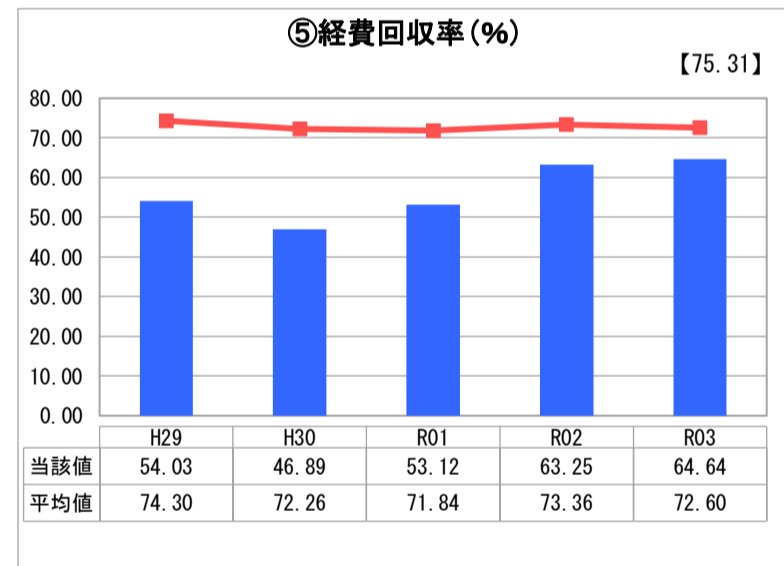
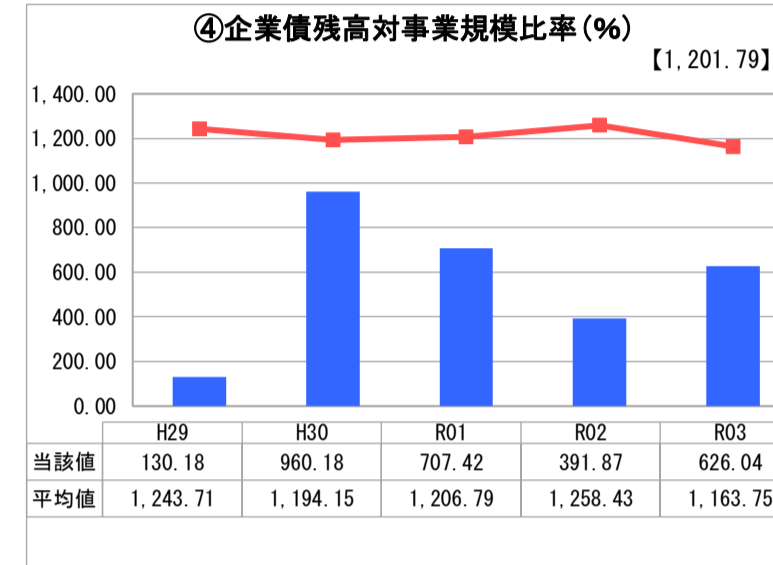
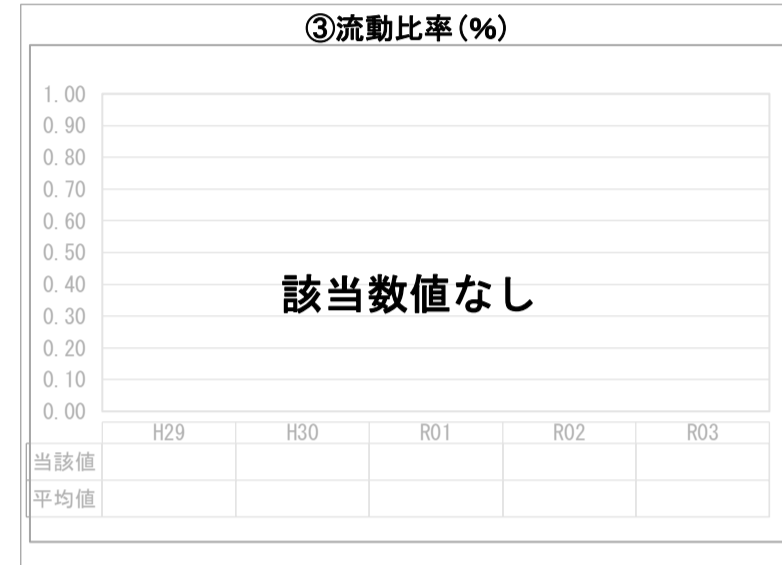
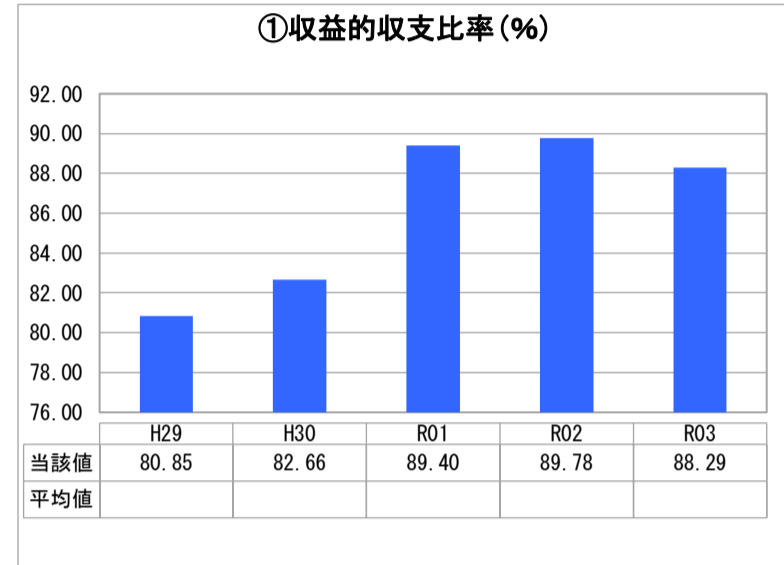
鳥取県 智頭町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	47.62	100.00	4,400

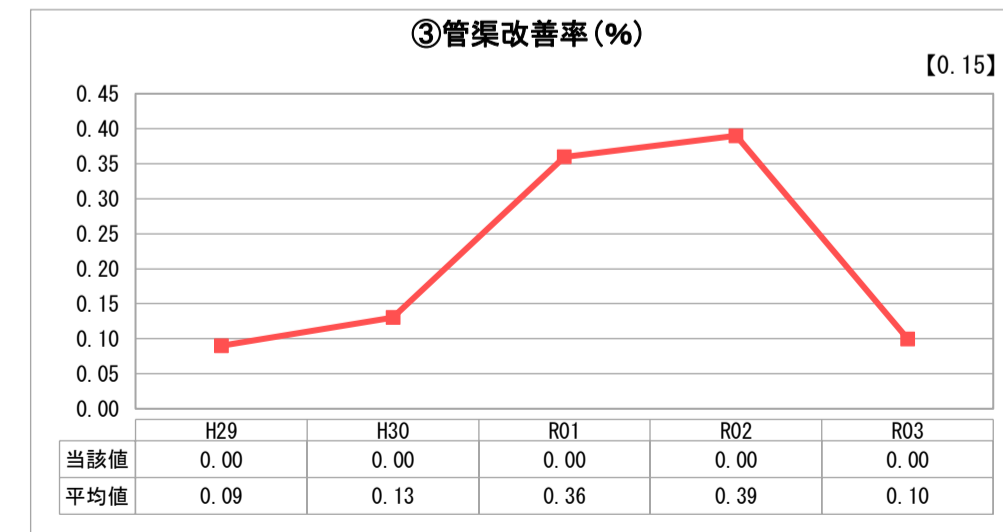
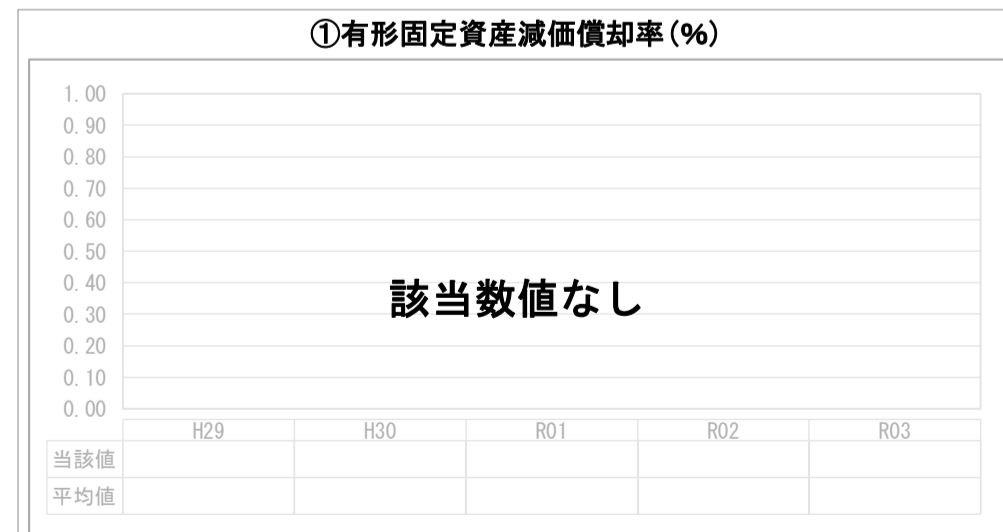
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
6,572	224.70	29.25
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
3,087	1.24	2,489.52

グラフ凡例	
■	当該団体値（当該値）
—	類似団体平均値（平均値）
【	令和3年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

収益的収支比率(①)はH28年以降改善傾向にあるものの、100%を下回っており、地方債償還金が大きな負担となっている。

企業債残高対事業規模比率(④)について、類似団体の平均以下であるが、今後は老朽化に伴い更新投資が必要な時期となるため注視が必要である。

経費回収率(⑤)は増加傾向にあるが、類似団体以下であり、費用の削減・経営改善が必要である。

汚水処理原価(⑥)は、前年より微増となっており、類似団体以上の数値となっているため、費用の削減・経営改善が必要である。

施設利用率(⑦)・水洗化率(⑧)は横ばいである。

2. 老朽化の状況について

管渠については、耐用年数に達しておらず緊急に更新する必要がなかったが、今後は耐用年数を考慮しながら計画的な長寿命化事業を行う必要がある。また、電気機器に関して耐用年数に達しているものもあり、計画的な更新改修が必要である。

全体総括

汚水処理費用に対して、料金収入が少なく、経営は厳しい状況である。処理場建設後15年以上経過しており、今後修繕費用も多くなると思われるので、適正な維持管理を行い、経営指標の推移に着目しながら健全な経営を目指していきたい。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。